

第 11 回県央ブロックごみ処理施設整備候補地検討委員会概要議事録

開催日時：平成 29 年 1 月 26 日（木）

開催場所：盛岡市総合福祉センター 3 階 講習室

開催時間：午前 10 時 30 分～

出席者：別添名簿のとおり

次 第：1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 検討委員会の選定作業計画について

① 検討委員会の追加開催について

(2) 『最終（第 3 次）整備候補地』の選定方法について

① 総合評価点の算出方法について

② 『最終（第 3 次）整備候補地』の選定方法について

③ 第 2 次整備候補地現地調査評価結果について

(3) 検討委員会報告書について

① 報告書の構成について

② 付帯意見について

(4) 次回（第 12 回）検討委員会について

4 そ の 他

(1) 県央ブロックごみ処理施設整備候補地に係る要望書について

(2) 盛岡市議会全員協議会への説明について

5 閉 会

会議結果・要旨：

発言者	内容
事務局	1 開 会 事務局から開会を宣言する。
伊藤事務局長	2 あいさつ 県央ブロックごみ・し尿処理広域化推進協議会事務局長の伊藤でございます。今年度あと数回の会議になりますが、どうぞよろしく願いいたします。 本日は、お忙しい中、第 11 回県央ブロックごみ処理施設整備候補地検討委員会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

<p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>中澤委員長</p>	<p>前回 11 月 28 日、第 10 回の会議で寒い中を現地調査に回っていただき本当にありがとうございました。そのうえで評価を行っていただきました。時間がない中、駆け足でしたので、不十分な点もあったかと存じますが、各候補地の現地や周辺の状況について御確認をいただけたかと思っております。</p> <p>本日、御協議いただく内容ですが、初めに、検討委員会の開催を 1 回追加し、全 13 回の開催ということを御提案させていただきたいと思っております。</p> <p>2 点目ですが、前回は行っていただきました現地調査の結果を総合評価に反映する方法につきまして、御協議をいただく予定としております。その総合評価の結果を基に、第 3 次となります最終整備候補地の選定方法についても併せて御協議させていただきたいと思っております。</p> <p>3 点目ですが、最終整備候補地決定後に、県央ブロックごみ・し尿処理広域化推進協議会宛に、検討委員会として協議の内容と結果を報告書としてまとめたいと思っております。その内容、形式等につきまして御協議いただく予定としております。</p> <p>4 点目ですが、次回、第 12 回検討委員会の内容についての御提案をさせていただきます。</p> <p>なお、その他として、先日、施設整備候補地に係る要望書の提出がありましたので、その内容と、2 月に開催されます市議会全員協議会で候補地選定の進捗状況を報告させていただきますので、それにつきまして御説明させていただきますたいと思っております。</p> <p>これまでも本検討委員会の事業運営につきましては、御指導、御協力をいただいているところでございますけれども、本日も検討委員会の円滑な運営に御協力をお願いしたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>次に、出席委員ですが、本日は委員 10 名、全員が出席しておりますので、設置要綱第 6 第 2 項の規定に基づき、本日の委員会は成立いたします。</p> <p>以降の進行につきましては中澤委員長にお願いいたします。</p> <p>3 協 議</p> <p>要綱第 5 第 2 項の規定に基づき委員長の進行による。</p> <p>(1) 検討委員会の選定作業計画について</p> <p>①検討委員会の追加開催について</p> <p>— 事務局から資料 1 に基づき説明を行う —</p> <p>ただいまの提案に関して御意見、御質問があればお願いしたい。質問等がないようなので、事務局の提案どおりでよいか。</p>
------------------------------------	--

委員	最終候補地を3箇所選んで、私たちの仕事はそれで終わるのか。その点を確認したい。
事務局	はい、3箇所程度の選定でお願いしており、そこまでの作業をお願いします。
中澤委員長	ほかに御意見があればお願いしたい。意見等がないようなので、事務局の提案どおり、委員会を追加開催したい。
事務局	<p>(2)『最終(第3次)整備候補地』の選定方法について</p> <p>① 総合評価点の算出方法について</p> <p>— 事務局から資料2-1に基づき説明を行う —</p>
事務局	補足説明をさせていただきます。事務局として案1から案6まで提案していますが、資料2-1の比重を見た上で、委員の皆様がそれ以外の案も選ぶことはできると考えております。
中澤委員長	<p>事務局から提示された6つの案について疑問点等があれば出していただきたい。その後、委員の意見をお伺いしたい。</p> <p>案6は、1次総合評価と現地調査の評価で順位を決めて、その順位を足して合算結果が少ないほうから順位が決まるということか。</p>
事務局	そのとおりです。
中澤委員長	この6つの案について疑問点はないということで、事務局から現地評価をどう位置づけるか、提案された6つの案について御意見を伺いたい。
委員	考え方の整理で少し提案したい。現地調査の評価をどれだけ重く見るかということで、事務局から6つの提案があったが、選ぶ側は少し複雑な感じがする。案1と案2を見た場合、案2は今までの計算方法を踏襲しているが、今回はマイナス点がなくプラスだけ加算したので、案2は意味がないのではないか。案1と案2は似ているので、案1を代表として考えたらどうか。案3は、あとで見るものとの間なので、そのまま残しておく。案4と案5は、現地調査と1次総合評価を等しく見る案と理解できるので、これは1つの案として扱ってはどうか。案6はほかにない考え方なので、そのままにする。

<p>中澤委員長</p>	<p>まずは案を4つにまとめて検討してはどうか。</p> <p>事務局から提示された6つの案を、現地評価をどう位置づけるかという観点から、案1と案2を1つ、案3、案4と案5を1つ、案6という4つの案で考えたかどうかという提案があった。案の数を少なくして意見を伺ったほうがいいと思うが、それについてどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>こういう場所を選定するときには、ある程度の前例や学術的な根拠、決まりがあると思う。今回の6つの案は、全国の事例を見てもそれほど様々あるわけではなく、現地調査をどれだけ反映するかどうか。そこをまず決めていただきたい。我々委員が実際に見た現地調査の中身を1次と2次の評価に加える割合は、案4と案5では50%、半々で評価される。現地調査を10%なり20%に抑えるほうがいいのかという議論が必要だ。私としては、60箇所の中から12箇所、9箇所に選定して実際に見たら、かなり違うものがあった。市民サイドから見た、実際に目で見た部分の評価を高く見るべきだろう。数字的な判断と現場を見た部分の評価が50%である案4と案5が妥当だろう。そのときに気になるのは、以前に落とした19箇所ないし12箇所に及ばなかったところの現地の状況を見たら、もしかしたら12位、9位に入る候補地もあったように感じる。ただ、そこまで考えると全部を見なければいけないので、ある程度絞った段階で現地を見たという根拠は理解できる。私は、現地調査、実際に目で確認した部分を50%入れるべきだと思う。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>現地評価と1次総合評価を対等に位置づけて評価するという意見が出たが、ほかに御意見をいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>この案の中で、現地調査と1次総合評価の比重が同等であれば、もしかしたら逆転するかもしれないという中身も見えてきているので、それをどう考えるのか。今、意見があったように比重をどちらに置くかということも考えながら進めていくほうがいい。</p>
<p>委員</p>	<p>去年、現地調査に行ったときに、調査した場所の状況があまりにも全部違っていることに戸惑った。当初、盛岡の東部エリアは道路事情とかいろいろな部分で困難なエリアだという話から、場所を絞り込んできた。非常に良い平坦な場所もあり、ものすごい山の中でこんなところという場所も多くあり、こんなところに造ったら付帯施設が考えられないという感じを持った。現地に行ってみて選定した場所の状況に差が出ていたことから、今までやっ</p>

	<p>てきた選定方法がよかったのかと思ったところがある。選定条件の中にインフラとか交通アクセス、経済性もあったが、それが反映されていない場所もあったような気がする。発電して売電するのにここまで電線が来ているのかと思う場所もあった。そう考えると、現地調査はものすごく比重が大きいだらうと感じている。</p> <p>これから10年先に焼却施設を建てて、その後20年とか25年活用していくと思うが、社会的な流れの中で焼却施設とはどういう性格のものか。単なる机上の議論で場所を決めていって、人里離れたとんでもない山奥では反対する人もいないし、山の中で地価も安いということで決めていったときに、10年後に盛岡の焼却場はただ単に燃やしているだけだということにならないかどうかということが、正直なところ気になった。よそでは市の庁舎の真ん前に建っている事例もあるようだ。やはりできた施設を有効に活用できるような観点はもっと議論されていかないといけない。機械的に決めてしまうことに大きな危惧を感じた。したがって、現地調査の部分をもっと議論する必要があるのではないかという気がしてならない。</p>
中澤委員長	<p>現地調査の結果を議論することと、現地調査の結果に重みを置くこと、その2つを分けているという意見なのか。</p>
委員	<p>やはり現地調査にはもっと重みを置くべきではないか。</p>
委員	<p>現地調査はかなり重要視していいのではないか。案4と案5によると全ての順位が変動する可能性がある。順位が変動する可能性はかなり大きな、我々が考えていかないとならない点だと考えるので、私は基本的には案4と案5の検討でいいのではないかと思う。</p>
委員	<p>私は、現地調査と総合評価を1:1までは重視すべきではないと思っていた。それは何かというと、そもそも現地評価には総合評価の確認的な意味合いがあるから、今までの机上の調査で見落とししていた、誤解していた部分を修正する機会だと捉えている。実際、現地調査では半日かけてあれだけの場所を回ったので、効率良く回るためにはどうしても1箇所滞在できる時間が10分前後という短い時間で現地を見てきた。現地調査を重視するならば、例えば1箇所につき30分とか、その場でしっかり説明を受けて、そこでもう少し突っ込んだ質疑ができれば、それなりに評価のウエートを高めていくこともあると思う。しかし、前回のような現地調査でそこまでをすると、逆に言えば、今までの客観的かつ私たちの主観も取り入れた、資料に基づいて</p>

<p>委員</p>	<p>時間をかけた評価の意義が低下してしまうのではないか。</p> <p>あの現地調査では、たぶん委員の見学の中で見た感じには個人差がかなり出てくる。現地調査の点数は均したものが出されていると思うが、現地調査の見方の違いによってここで議論が滞って先に進まなくなるので、現地調査は決まったところの確認、平面で見たものと現地で見たものに実際に違いがあったことを確認することで、私は、●委員の御意見に賛成する。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>現地調査で見るということは視覚的なデータだと思う。今までの評価事項には視覚的な面だけではない評価もかなりあった。当然視覚的に得られた情報で判断することも重要かもしれないが、実際に焼却施設を造る場合に評価すべき事項の中で、視覚的に得られる部分とそうではない部分の割合は難しいと思う。それで1:1で視覚的な部分を高く重視する評価方法はなじまないのではないか。50:50ではなくて、もっと中間的で、視覚ではない客観的なデータもきちんと適切に評価方法に加えた割合にするほうがいいのではないか。現地調査の比重はどのぐらいが最適なのかを論議したい。</p>
<p>委員</p>	<p>学問的な話なのか統計的な処理の議論なのかかわからないが、今の3人の委員方の話をお聞きすると、根本的にスタートから、付帯施設は考えない、燃やす部分だけでのいろいろな統計処理をしている。ここに来て、付帯施設のことまで含めて現地に行けば、付帯施設まで当然見るわけだ。今まで数値的に出たものを各委員が評価した。それは、出てきた数字の中で国道から何kmなのか、運搬経費がどのぐらいかということで、まさにごみを焼く処理場としての判断をした。ところが、現地に行ったらどうしても付帯施設の部分を想定して、あるいは住宅地との距離が今までよりももっと近いということで判断した。そうだとすれば、この1次と2次の机上プランでやるのであればきちんとした統計処理に従ってやってほしい。我々に判断をさせない。まさに机上プランで各自が評価した点数をつけた。しかし、現地はちょっと違うのであれば、最初から我々に判断させないで統計処理の中で判断して決めて出したらどうか。統計処理ではこうなったが現地を見てどうか。これは付帯施設を考えないで現地を見てくれという指示であればよかったが、我々は現地を見るときには付帯施設も当然見た。出てきた数字についても判断した。市民レベルの目線で見れば、それが違うということは議論が違うのではないか。今の3人の意見に異論がある。</p>
<p>委員</p>	<p>●委員の話にあった現地調査の捉え方は、9箇所選定したところを補完的</p>

	<p>にということだったと私は理解した。しかし、逆ではないか。この9箇所はどこでも可能性としては合格だろう。それに加えて現地に行って、ごみの焼却を含めて運搬など人間の経済活動の一環だから、見た結果、ここがより適当ではないかという、机上ではわからなかったことがたくさん出てきた。それが、11月28日のそれぞれ皆さんの印象の中にあるのだろう。そう思うと、むしろ現地調査のウエートが大きくて適当ではないかと考える。</p> <p>具体的には、この1年ぐらい前に遡ると、この施設を造ることについては嫌われる施設で、どういうところに造るのがいいかという観点から選ばれてきているような気がする。どういう施設を造って、どのように市民に活用してもらおうかという観点から考えると、実は地図の上で全てを均等に見る必要はそもそもなかったかもしれない。適当なところはどこだろうかという選定方法もあったかもしれない。ところが、今ここまで来ているから、そういうことを言い始めたら全てがご破算になってしまう。この選ばれた9箇所の中から現地調査の結果どこが適当だろうかを、やはり市民のためにという施設で考えてみる方がいいのではないかと考える。そういうことから、やはり現地調査のほうが、ウエートが高くても不審はないのではないかと考える。</p>
中澤委員長	<p>現地調査の比重を高めるということで、今の提案はもっと高くするということか。</p>
委員	<p>案4や案5がいいのではないかと意見だ。</p>
中澤委員長	<p>先ほどの意見に出た付帯施設を考えるということは、今までの委員会でも重視している。付帯施設ができるかどうか、机上のデータでも考慮した評価をしている。現地に行くことと付帯施設ができるかどうか（を判断すること）は別の問題である。</p>
委員	<p>今までの御意見では現地調査、視覚的な評価を重視するという意見が多いが、ほかに御意見を伺いたい。</p> <p>現地調査に行く前は地図を真上から見て判断してきた。しかし、現地調査は高さも見えてくる。その辺で、今までの真上からばかり見た見方と大きなギャップが出てくるのは当たり前だ。当然、今まで議論してきた道路や地形の斜度といったものが見えてきた。真上から見たものでは、どれだけ急な山なのかといったことは見えていない。果たしてそれが無視されていいのだろうか。</p>

中澤委員長	<p>今の意見は、今までの評価では地形の斜度や落差はわからなかったが、現地調査で実際に見たらその違いがわかってきたということだと思う。それについて補足すると、今までのデータでも傾度は評価されていたが、それを実際に三次元的に見て印象を強くしたのではないか。</p>
委員	<p>今までそういう評価をしたかもしれないが、ここを削って平らにしたらということが出てくると、今までのデータは関係がなくなってしまう。</p>
中澤委員長	<p>補足して説明すると、今までもそういう評価は行ってきた。この委員会の中で論議しなかったということではない。</p>
委員	<p>現時点でのアクセスについて考えると、道路状況はこの先 10 年後とか 20 年後に結構変わってくるだろう。そこは協議しなくてもいいのか。具体的には、大釜周辺を含めて、あの辺の道路状況は今後すごく変わるのではないか。しかし、我々委員にはそういう材料がない。アクセスを考えると、今後道路が良くなるという条件の変化はないのか。それは今まで話題の中に出てこなかった。</p>
事務局	<p>それについては何とも言えないところがあります。例えば工業団地とか競馬場の脇とかには新しい道路が近々にはできるわけです。これらの情報は提供してきましたが、それ以上の計画道路がいつできるか、または、計画にない道路が今後どうなるかとなると、私たちも確約できないところがあります。時間がない中、全ての情報を提供できているとは言えないところはあります。検討委員会には、できる限りの情報は出したつもりでおります。その中で絞り込みを行っていただきたいと考えております。最終的にはそれをいただいて、あとは協議会、盛岡市の中で地元に入って話をしていきます。その中でいろいろ疑問が出てきたり、また計画が動いていきます。それは、その段階での最終的な判断の中で見させていただこうと考えています。</p>
中澤委員長	<p>ほかに御意見があれば伺いたい。</p>
委員	<p>ここで現地調査を 50 にするという案 4、案 5 と決めればいいのか。それとも、意見がいろいろ出てきて、事務局でその意見を加味して決めるのか。最初にその説明がなかった。決めるということであれば、現地調査を 50 にするところで決めないと、第 12 回目の会議がまた変な話になってしまうので、決めたほうがいいのか。</p>

中澤委員長	<p>いろいろな意見が出たので、最終的にどうやって決めるのかを決めなければいけない。</p>
委員	<p>この方法でということを決めておけば、次回にその結果このようにしたということでもいいのではないか。</p>
中澤委員長	<p>ほかに御意見がなければ、皆さんの意見を採り上げて最終的に案をどうするのか決めたい。</p>
委員	<p>先ほどの道路の話については、今のクリーンセンターのように施設ができたことによって何年かけて周辺の道路が整備されるというケースもある。10年20年先になると、逆にそういうことも考えられるのではないか。</p>
委員	<p>新しい分レバイパスの道路の構造を見ると国交省は西のほうにずっと太い道路を通す計画ではないかという気がする。渋民のほうからずっと下がってきて盛岡に入るのに左折するが、道路の構造からはまっすぐ行くのが自然だろう。たぶん大釜のほうに太い道路を通すのが国交省の計画だろう。20年後にはできあがっているかもしれない。世界アルペンのときの道路もわずか1、2年でできてしまったから、政府がやると決めたら一気にできてしまうだろう。だから、そういう意味では情報収集をしてもいいのではないか。</p>
委員	<p>この選定の経緯等はこのあとの議題に出てくる報告書にまとめられる。それが出た場合に当然説明責任があるので、それに十分耐え得るような決め方をしなければいけない。そういう意味で、今までの決め方は胸を張っていいという感じで、特に大きな不備もなく丁寧な議論をしてきたことは事実だ。そこを踏まえて、今回、仮に現地調査の評価を重く見る、1:1とする場合に、今までの詳細な、何段階か踏まえた評価と同じぐらいに丁寧な観点で現地調査が行われて、評価されたかという、自分の現地評価に感覚的には自信が持てないというのが正直なところだ。委員長がおっしゃるように、地形については地図とか斜面の説明があったし、付帯施設についても個々の事案を説明するとき可能性を事務局の範囲で説明があった。そういう観点で、1次総合評価まである程度できていたはずだ。もし十分にそこでできていなかったとすると、場合によっては委員側の見落としがあったかもしれない。それでも誤差はあるので、その誤差を現地調査によって修正するという意味合いで私は捉えていた。確かに案1と案2は今までの議論ではあり得ないので消</p>

	<p>去して、また案6は今まで出てきていなかった。だから、案4と案5は似たような考え方なので一まとめにして、また案3と案4の間ぐらいの、例えば1:1は重いので1:2とか1:3にする、25%か33%といったところが追加案としてあるのではないか。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>今の提案のように、現地調査と総合評価の割合にバリエーションを持たせる。今は18%、50%、10%ぐらいだが、その比重を変えた案を提案することについて御意見を伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>それは弾力的に対応して考えていいのではないか。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>ここに出された案以外で、現地調査にどのぐらいの重みをつけるか、例えば50%にするか、18%にするか、もう少し間をとった数字にするか。そういうことで評価方法を決定することについて御意見を伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>現地調査の前の数字は正しくなかったのか。選んだ9箇所の現場を見て、どうしてあのような結果が出たのか。学校の前の田んぼでやるという場所が出てきている。実際に行ってみたら、すぐそばに住宅や学校があった。そういう場所が1次や2次の机上プランで出てきていた9箇所にある。実際に見てそれを是正するという意味で現地調査をしたわけだから、最低でも50:50でやる。むしろ現地調査を6にして机上プランを4にしていぐらいの結果だと、私は現場に行き判断した。</p>
<p>委員</p>	<p>全然違う観点から申し上げたい。東京の練馬区や杉並区のように街の中に施設があるというケースも現実にはある。ところが、盛岡市の現状に照らし合わせてみた場合に、この工程の一番最後にある「周辺住民の理解」が非常に重いポイントになると私は予想している。</p>
<p>委員</p>	<p>渋民は渋民中と渋民小に山を削ってしまったその目の前なので、地域住民の説得は相当難航すると考えられる。そういうことからすると、今の比重をどうするかは別にして、ある候補地は除外の対象にしたほうがいいのではないかとこの観点も加味できないか。もしそこが選ばれたときに地域住民との折衝は相当困難になるのではないかと心配している。</p>

中澤委員長	新たな観点から候補地を削除する可能性があってもいいのではないかという意見だった。今回は2次総合評価方法を決めるので、実際に評価方法が決まったときに、ランクが上でも除外したほうがいいのではないかという候補地が出た場合にどうするのか。ここでそれを論議するのは難しい。
委員	それは行ってみてわかったことだ。行って見るまではわからなかった。
中澤委員長	それについてどこで論議するか。どう考えていいか、私もまとまっていない。次の議題で、2次総合評価を出して最終整備候補地を決めるという話があるので、そのときではどうか。
委員	アローワンスとして残していただきたいという提案だ。
中澤委員長	いろいろな意見が出されているが、最終的にどの案を2次総合評価方法とするかを決めたい。もし評価方法についての意見がなければ、今まで出された意見を委員会としてどうまとめるかについて話を進めたい。
委員	案5と決めて計算して最終候補地を3箇所決めて、その段階で今の意見を踏まえて第12回の委員会で総合的な議論をしたらどうか。
中澤委員長	案5という意見に対して、ほかにいかがか。
委員	案3と案5を並べてみるのはどうか。
中澤委員長	2つの案で算出してみるということか。
委員	方法としてはないわけではない。
委員	そうするといろいろな意見が出てくるから、今5:5で行こうと決めていただく。案4か案5のどちらかの案で算出して結果を確認することでいいのではないか。現地調査を重んじるとすれば5:5で計算する。机上評価の妥当性に疑問点もあるので、現地調査の結果も入れるといい数字になる気がする。
中澤委員長	ほかに御意見があればお願いしたい。
事務局	今のお話を聞きますと、やはり現地調査の位置づけや、その点数のつけ方

	<p>について、あとから議論する方法としたことについてよかったのかという意見はあります。ただ、見ていただいてわかったところがたくさんあると思います。事務局とすれば、その前の1次評価の段階で入っていなかったと言われれば、入れたつもりです。それが十二分に御理解いただけなかったという反省もあります。ですので、今のお話があって、おそらく案3と案5になるような気がします。それをお出しして、その結果を見ながら御判断いただくという手もございます。ただ、前回、検討委員会はそういう場にしたくないというのが総意だと思っておりますので、果たしてあとあと見た場合に本当にいいのかなという気もします。例えば6：4でやってみるという手もないわけではないです。</p>
<p>委員</p>	<p>現地調査をそれ以上重点的に置くわけにはいかないので5：5で計算して、そしてランクづけをするということでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>5：5という御意見が数的には多いような気がします。それをメインにして一度結果をお出しして、例えば案3の結果を参考として出すことはできます。今日は無理ですが次回にお出しするという考え方もあるかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>基本的には5：5にして、参考として案3のデータを出す。25%とか18%と言っていると、先に結果を求めて、そこに持っていくための小細工をしていると思われる。現地調査と机上プランを50ずつでやったら市民も理解する。18%とか17.5%、25%と言っていると、ある3箇所を想定しながら計算したのではないかという疑いを持たれてしまうので、それではいけないと思う。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>あくまでもここで決めてから出す。前回、私は、結果には封をしてもらって選定方法を決めてから順位を決めるほうが客観的だと感じたので、そういうことを言った。委員の皆さんの意見は50:50だが、その50:50にしたのはどういう理由からなのか。例えば視覚的な情報を重視することの説明をどうするのかを考えなければいけない。今まで多くの中から科学的なデータで決めてきたが、最終的には視覚的なものだと委員会で判断したことを十分に説明できるような意見をまとめたい。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば3箇所から1箇所を選ぶという話であれば、現地調査を重視することは理解できる。9箇所が全て合格点とは言えないという話があって、だから現地調査は重要だということはもちろんだが、委員長がおっしゃるように</p>

	<p>何を評価のポイントとしているのか。委員長がおっしゃったように現地調査の評価について十分にほかの部分と比べて念入りの検討が行われたかという点、必ずしもそうではなかった。現地調査の時間も短かったし、評価の時間自体も場所の移動もあって時間もなかった。この時点で1：1で評価するのは厳しいと思う。多くの事例を把握しているわけではないが、ほかの事例では聞いたことがない。逆に現地調査から戻ってきて机上の資料を基に評価することもあるのではないかと。正直なところ、私には科学的なところに自信を持ってない。</p>
<p>委員</p>	<p>現地調査の回り方によって受ける印象が変わってくるのではないかと。皆さんから「ここはどこだ」という声が出たことが意外だった。私は市の中心からの距離を押さえていたからわかっていたが、「ここはどこだ」という観点から見ると、すごい山奥だという印象を受けてしまう。場合によってはもう1回行く必要があるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>評価のウェートを高くするのならば、そういうことになりかねない。</p>
<p>委員</p>	<p>机上プランでは正しい評価をして9箇所を絞り込んだ。しかし、机上プランの正解は合格ではないということで現地を見たところ、実はかなりの違いが出た。したがって、50:50の評価をしてランクづけを出したのがこの結果だという説明をすれば、普通の市民は理解できるはずだ。机上プランは正しい、現地調査も正しい。しかし、その差は当然ある。それを均したものがこの最終の3箇所であるという説明であれば、そんなに難しくない。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>一番の問題は1：1でいいのかということだ。なぜ1：1にしたのかということの説明が大事だ。</p>
<p>委員</p>	<p>机上プランは正しい、現地調査も正しい。同じ評価で足したものだとしないと大変なことになる。現地調査が2割だとしたら、現地調査はやらなくていい、机上プランだけでやったらいいのではないかとなくなってしまう。やはり50:50となるのではないかと。現地に30分とか1時間いなくても、見ただけでわかる。机上プランとは違っていると目で判断した部分は大きいのではないかと。だから、50:50でいいのではないかと私は考えている。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>なぜ1：1にしたのかということはどう説明するのか。今まで集めたデータで評価した評価と視覚的な評価を1：1にしていいという、その理由をどう説</p>

	<p>明するのか。</p>
<p>委員</p>	<p>現地調査をしないとわからないところがたくさんある。だから、合格した箇所を現地調査して選定したということで、その比重の軽重にとられることはないのではないか。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>その点は報告書にどのように載せるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>検討委員会でどのように検討したかというところも含めて報告書の中に取りまとめたいと考えています。この比重は完璧なものは把握していませんが、0:100 もあれば、逆に 100:0 の事例もあります。ただ、この委員の比重が 100:0 は、委員による投票をしているものです。点数があつて現地調査を踏まえて最終的に「私はここがいい」という決め方も例としてはあります。ですので、こういう考えでまとめましたということであれば、それは委員会としてのまとめになると考えております。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>今までの意見を踏まえて皆さんの同意を得るための決定方法をどうするか。今は 50:50 という意見が多いので、それをこの委員会の合意としていいのか。それとも、何らかのかたちではっきりさせるか。</p>
<p>委員</p>	<p>採決する以外にないのではないかと。委員会では多数決で決めたということではないかと。多数決で決めていただいて結構だ。</p>
<p>中澤委員長</p>	<p>できれば多数決ではなくて、皆さんにある程度の同意を得たい。</p>
<p>委員</p>	<p>これまでずっと検討委員会として客観的なデータによって絞ってきた。それである程度の数に絞り込んだ。最後に現地調査を行った。おそらく客観的なデータについては客観的な評価をされたと思っている。現地調査については、人によってその見方がだいぶ違うか。委員によってはすごく差が出てくるという気がする。私個人的には 1:1 はちょっと危険だな、50:50 だと大きいかなと感じる。今回現地調査を 11 月後半に行ったが、おそらく夏に見るとまたイメージが違って来るのではないかと。そう考えると振れ幅が大きくなる。それを検討委員会としてまとめるときに苦労するだろうという気がする。協議会から突っ込まれたときに十分な説明ができるものをつくっていくようにしたい。</p>

委員	<p>見る人によって違うと言うが、その違いがあつて当たり前だし、そのために委員がいる。それをできる限り小さくすることは、我々市民感覚からすればおかしい。どういう根拠でこの数字なのかということでは、私どもからすると数字よりもやはり感覚だろう。市民の皆さんが物事を話すときに理論的なことを話す方はごくまれで感覚的なことで話をする、感覚的なことで行動することが多いような気がする。それを織り込むのが、この委員会ではないか。そのための地域住民の代表で、そのための業界の代表だ。</p> <p>単なる数字だけで追い掛けるのであれば大学の先生だけで決めればよいことであつて、地域住民の考え方、学問的な部分から離れた感覚が必要だからということで、このように広く委員の皆さんが来ていると思う。そうであれば、委員会の決定だと言えれば 50:50 でも、それでは駄目なのか。</p>
中澤委員長	<p>それが駄目だということではない。私も専門家というよりも市民としての感じ方も持っているので、その点を理解してほしい。</p>
委員	<p>今、●委員がおっしゃるように個人差はある。机上プランのデータも個人で判断していて、それにも個人差が出ている。個人差が出て当たり前だ。そのために委員としていろいろな人が出ている。それで現地調査も非常に貴重だという意見が多い。机上プランは正しいのだけでも、もしかしたらと感ずるのであれば、50:50 で出して、そのランクづけで大変なところが選ばれることもあり得るかもしれないが、そのときに改めて検討することとしておけば、やはり同じ方法で計算してランクづけすることが今の段階では必要だろう。検討会は 11 回も開いているから、初めに戻してやり直すわけにはいかない。同じレベルで対等にやっていいたらと思う。</p>
委員	<p>案 4 と案 5 がいいということだが、この案 4 と案 5 では順位がかなり変わる可能性がある。変わってきたときに我々は説明できるのか。違いがなくて決まったところが出たら、それは統計的な話になる。ただ、例えば 9 位が 1 位になったときにどうかということを次の検討会で詰めていく。2 月の検討会でまた評価点を考えてみると書いてあるので、今●委員が言ったようにその段階になって我々はもっと考える必要があるとなれば、私は案 5 でも十分である。</p>
中澤委員長	<p>今回の総合評価点の算出方法はランキングを決める。そのあとで、ランクの上から 3 箇所程度を最終候補にするかどうかということ②の『最終（第 3 次）整備候補地』の選定方法で論議することになる。</p>

	<p>皆さんの意見では 50:50, つまり視覚的に 3 次元的に見て周辺の状況を判断して, それを評価したいという意見が多いと思われる。ただし, それだけでいいのかという意見もあるが, 50:50 という意見が多いので, 50:50 という算出方法が委員会の合意ということによいか。</p>
委員全員	はい。
事務局	<p>② 『最終（第 3 次）整備候補地（3 箇所程度）』の選定方法について — 事務局から資料 2 - 1 に基づき説明を行う —</p>
中澤委員長	事務局から, 最終候補地の選定方法について 3 つの事例が示された。それについて御意見を伺いたい。
委員	意味がよくわからない。これは, 今決めた現地調査と机上プランを 50 ずつでやった結果でやるやり方なのか。
事務局	結果, ランキングが出ます。その中から最終候補地として 3 箇所を選ぶ方法です。
委員	先ほどから出ているように, これから選んで問題がある箇所があれば議論するということか。
事務局	そのとおりです。
中澤委員長	ほかに御意見等がなければ, 事務局の提案のとおり (1) の最終的評価点数により選定する方法でよろしいか。
委員全員	はい。
事務局	<p>③ 第 2 次整備候補地現地調査評価結果について — 事務局から現地調査の結果を配付 —</p>
中澤委員長	データの提示で, これについて特に皆さんの御意見を伺うことはない。この資料は回収するのか。
事務局	会議終了後, 資料は回収させていただきます。

事務局	<p>(3) 検討委員会報告書について</p> <p>① 報告書の構成について</p> <p>② 付帯意見について</p> <p>— 事務局から資料3に基づき説明を行う —</p>
中澤委員長	<p>初めに、報告書の構成について御意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>11 ページで、事務局において修正をしているようだが、内容自体は変わっていないのか。</p>
事務局	<p>内容に変更がないように修正を行っております。</p>
中澤委員長	<p>ほかに報告書の構成について御意見があればお願いしたい。意見がないようなので、報告書はこういう構成にする。</p> <p>次に、付帯意見については時間がないので、付帯意見があれば事務局に文書で提出することとするが、口頭でもよいか。</p>
事務局	<p>お電話でもファクスなどでも構いませんので、事前にいただけるのであればそれをお願いしたいと思いますし、当日口頭でも構いません。</p>
委員	<p>3箇所最終候補地が決まらなると付帯意見は出てこないのではないのか。</p>
事務局	<p>次回、第12回検討委員会で事務局として報告書の骨子案をつくらせていただきます。その際に付帯意見ということでしたものを第13回検討会でも確認する機会がございます。ですので、次回とその次の2回の検討委員会で固めたいと考えております。</p>
中澤委員長	<p>第13回検討委員会までに新しい付帯意見が出てきたら、随時伝えればいいのか。</p>
事務局	<p>次回の検討委員会でも付帯意見の議論をしていただこうと思いますが、その次の回でも付帯意見の議論は継続します。ただ、できるだけ第12回までに、次の会議中にいただければ。そうでないと、次にまとまったものに全く違うものがあると困りますので、次の会議までということをお願いいたします。次の会議は2月末です。</p>

中澤委員長	報告書の構成と付帯意見については、これでよろしいか。
委員	これでよいが、最終的に決まる3箇所に対する委員の付帯意見ではなくて、全体的に見た付帯意見ということか。
事務局	はい、全部含めてです。
委員全員	異議なし。
事務局	(4) 次回(第12回)検討委員会について — 事務局から資料4に基づき説明を行う —
中澤委員長	ただいまの説明について御意見御質問があればお願いしたい。意見がないようなので協議事項は以上で終了する。 以降の進行は事務局にお願いする。
事務局	4 その他 (1) 県央ブロックごみ処理施設整備候補地に係る要望書について (2) 盛岡市議会全員協議会への説明について — 事務局から参考資料に基づき説明を行う —
事務局	要望書につきましては、事務局が出て説明をしてまいりましたが、この発言のとおりでございます。私たちのほうには具体的な場所の提示はございませんでした。それを報告書の中にどのように入れるか。例えばほかからもそういう話があったときには前向きに進めてくれという御意見をいただくとか、そういうかたちで報告書の中に入れていただきたいと思います。ただ、今までの検討の中に全く出てこなかった話ですので、その扱いについて、次回、御協議をお願いしたいと思っております。 全員協議会につきましては、検討委員会はこれまで非公開で、議事録等につきましても全てマスキングした上で公表しておりますので、今までの非公開と方向性が違うところがございます。これは3箇所程度をいきなり最後に出してそこから議論するというよりも、ある程度市民に検討状況を示す中で、何かしら検討の俎上に上っていることを示したほうがいいのではないかと、業務支援のコンサルタントから、他都市の事例も見ながら、こういう考え方もあるのではないかという提案があり、それに基づき進めさせていただいて

	<p>おります。</p> <p>ただ、具体的な場所につきましては、細かい図面ではなくて、この程度の図面で示して御説明をします。これについては議員さんから話があると思いますが、これで通していきたいと思っております。直後に説明会もして、関連の地域の方からお話もあるかもしれませんが、検討委員会でも検討中だと御説明しながら、全体的な場所だけではなくて施設のあり方、今後の地域への貢献も含めて施策についても御説明して、最新のところをお話ししながら御協議していきたいと思っておりますので御理解をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>今の説明につきまして御意見、御質問があればお願いします。</p>
委員	<p>この要望書中の候補地は、これまで状況として出ていたので、それを見たこの地区の皆様方が誘致をしたいということで、その要望書の取り扱いをこの委員会でやるとすれば、こういうことを周知した上で平等に要望書を取らないとおかしいのではないかと。わかったところだけが要望書を出して、それを委員会にかけるとか報告書にまとめるのであれば、もう少し広く市民に何か要望等がないかと思わないかと、あとで市が困らないのか。</p>
事務局	<p>要望については昨年の8月、9月の2ヶ月で広報を通じて公募して、御存知のとおり1箇所が出てきております。そういう意味で基本的には今のルールから、別の情報が出てきたというものです。ただ、このお話は非常に前向きな御要望でもあったので、この扱いについては次回の会議の中でということをお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>ほかの地域に再度このような要望書を新たに出せということはない。そうであれば、あまり委員会としては意識する必要はない。みんなが要望を出してきたら、我々が選んだ箇所ではないところが当然出てくる。それをやったら、検討委員会としての方向づけはできない。それはここでの話ではなくて市役所でやってもらうということを提案する。</p>
事務局	<p>ほかに御意見、御質問はございますか。</p>
委員	<p>この焼却施設の整備について現在の焼却施設の建替えであれば国からの交付金が受けられるが、それ以外であれば地元負担で建てなければならないという話を聞いたが、その辺の真意はどうか。</p>

事務局	今回、広域化で県央ブロック内にごみ焼却施設を1箇所造るということにつきましては、国の交付金をいただいて造る予定です。
委員	建替えなくても大丈夫なのか。
事務局	建替えでなくても大丈夫です。ある一定の基準以上になれば、その交付金の率が高くなる。エネルギー回収率がいいものについては、交付金の率が3分の1から2分の1に上がるというものです。今造ろうというものは国の交付金を最大限活用したいと考えています。
委員	場所については関係ないのか。
事務局	場所は関係ございません。 あと、御意見、御質問はございますか。
委員全員	なし。
事務局	5 閉 会 事務局から閉会を宣言する。

12：20 終了（以上）